

方式・日程	学部学科	出題内容
指定校推薦	学芸学部国文学科	これまでに読んだ文学作品を一つとりあげ、その作品の概要、作者について知っていること、自分の感じたことについて800字程度でまとめなさい。 ※キャラクター文芸コースはマンガ作品をとりあげてもよい。
	学芸学部国際英語学科	「日本においても小学校低学年から英語教育を導入すべきである」という意見があります。この意見に対してあなたの考えを具体的な理由とともに述べなさい。(800~1000字程度)
	学芸学部健康栄養学科	健康を維持し続けるための食生活について論じなさい。(800字以上1200字以内)
	学芸学部被服学科	あなたが自分に似合うと思われるファッションについて具体的に(理由も含めて)述べなさい。(800字程度)
	学芸学部 ライフプランニング学科	別紙の資料を読み、以下の問いに対する答えを800~1000字程度にまとめなさい。 <問い> ・あなたにとって幸福とはどのような状況にあることをいうのか。 ・そのような幸福を多くの人が感じることができるといえる社会を築くためには、今後、どのような取り組みが必要か。
	心理学部	乳幼児の心の発達には、養育者との情緒的な関わりが大切だと言われます。その理由についてあなたの考えを述べなさい。(800~1000字程度)
C方式 3月17日	学芸学部国文学科	身の回りで目にしたり、耳にしたりする日本語や方言について具体的に取り上げ、感じたり考えたりしていることを800字程度でまとめなさい。
	学芸学部国際英語学科	「国際人」とはどのような人を使うのでしょうか。あなたの考えを具体的に述べなさい。(800~1000字程度)
	学芸学部被服学科	あなたが自分に似合うと思われるファッションについて具体的に(理由も含めて)述べなさい。(800字程度)
	心理学部心理学科	人の性格はどのようにして形作られるのでしょうか。あなたの性格が形成される上で影響を受けた人やものについて考え、その体験も踏まえて性格形成上大切なことは何か、あなたの考えを800字~1000字程度で論じなさい。

## 傾向 学部、学科の専攻に沿ったテーマに基づいて800字から1200字の論述。

学芸学部ライフプランニング学科で「資料を読んで答える」という形式の出題はあるが、学芸学部国文学科、国際英語学科、被服学科、心理学部、児童学部では全て与えられたテーマについて答えるという形式である。与えられるテーマの内容は各学部、学科に関係しているので、受験生にとっては関心を持って取り組めるように出題されている。制限字数は800字程度または800字から1000字(1200字)程度となっており、学部、学科によって異なるものの、決して少なくはない字数である。学部、学科の性格に沿ったテーマなので関心を持って取り組めるとはいえ、制限字数的にみると難易度は高い。

推薦入試、一般入試ともに与えられたテーマに対して答え

## 対策 志望する学部、学科に沿ったテーマに関する知識などを新聞や図書を通して吸収しておこう。

本格的な小論文であるため、付け焼き刃的な準備では合格はおぼつかないだろう。合格点を取るためには十分な対策が必要だ。対策のポイントは、問われているテーマに対して考えを明確にできること(発想力)、その考えを文章で表現できること(表現力)、採点者が理解しやすいように述べること(表現力、構成力)の3点である。「発想力」については、何も無いところから「考え」を導き出すことはできないので、志望学部、志望学科に沿った問題、知識、考え方などを、普段から新聞や図書、ニュースなどに目を通して記憶し、それらを表現する練習を繰り返すと良い。「表現力」を養うためには課題に関わりなく「模範解答を書き写す」ことが効果的

という形式は変わらないが、学芸学部被服学科を除いて与えられるテーマは異なっている。特に注意して欲しいのは、推薦入試の場合はテーマに具体性が加えられているのに対して、一般入試の場合は短く一般的な表現で出題されていることだ。学芸学部国際英語学科を例に挙げると、推薦入試の場合は特定の具体的な意見が示されているので考えやすいだろうが、一般入試の場合は単に「国際人」としか示されていないため、考えをまとめることは容易ではないだろう。このように、推薦入試ではテーマが具体的であるのに対して、一般入試ではテーマが一般的、抽象的であるため、一般入試の方が難易度はより高いと言える。

だ。その際、重要なことは一字一句を覚えるのではなく、語句、語の組み合わせ方、接続語の使い方、文の長さ、句読点の使い方などを意識して学ぶことである。書き写すことで内容も自分の物にできれば一石二鳥である。「構成力」を磨くためにはただ書くだけではなく、添削を受けることが効果的だ。序論(あるいは結論)、本論、結論(解答)として読み手が理解できるように「一つの形式段落に一つの要点(内容)」を心がけて実際に書いて添削を受け、再度書き直す、という具合に練習を積むことで「表現力」「構成力」「論理力」を養うことができる。以上のポイントを踏まえつつ過去問を参考に志望に沿ったテーマを選び練習を重ねると良い。

**出題例** 平成26年度 学芸学部国文学科指定校推薦入試問題  
これまでに読んだ文学作品を一つとりあげ、その作品の概要、作者について知っていること、自分の感じたことについて800字程度でまとめなさい。

### 解答例

私がとりあげる文学作品は夏目漱石の『こころ』である。夏目漱石は明治・大正時代の英文学者、小説家、評論家である。東京帝国大学で英文学を専攻した後、愛媛県の尋常中学校、熊本県の高等学校で英語を教え、英語研究のためイギリスに留学した。この留学により西洋寄りでもなく日本的でもない個人観や国家観を養い、自らの体験を基に『吾輩は猫である』『草枕』を執筆していった。その後自分の思想を登場人物に語らせる形で多くの傑作を残したが、作家としての活動期間は短かった。

『こころ』の概要は次のとおりである。「私」は「先生」と出会い、「先生」の言葉や思想にひかれ、毎日のように「先生」の家に通うようになる。実の父親以上に「先生」に親しみを感じるようになった「私」は「先生」の過去に興味を抱く。「先生」は人間不信に陥っていたが、「私」の純粋で真剣な心に触れてしかるべき時に過去を教えると約束した。父の病気のために帰省していたときに「先生」から手紙が届き、手紙には「先生の過去」が書かれており、親友だったKとのこと、お嬢さんとのことが克明に記されていた。

『こころ』には人間の本性が描かれていると私は思う。叔父は「先生」の両親の遺産をごまかし、金のために様々な策略を凝らし、「先生」は人間不信になってしまった。その後下宿生活を始めた「先生」は下宿先のお嬢さんに恋をする。親友のKもお嬢さんに恋をし、心の内を打ち明けられた「先生」はKとの友情とお嬢さんへの恋慕の間で葛藤しつつも策を講じてKに先んじてお嬢さんとの結婚の約束を取り付けてしまう。その結果Kは自殺してしまった。叔父の策略により傷つけられた「先生」自身が皮肉にも策略をめぐらしてKを傷つけることになった。ここには自身の欲望の実現、達成のためには利己的な本性をあらわす人間の姿が見てとれて印象深い。「先生」の葛藤と苦しみへの末の悲惨な結果に私は胸をうたれた。

(800字)

### 学習法

#### 【小論文の基礎を学ぼう！】

- 1) 小論文とは何か  
制限時間の中で特定の設問に対して文章で解答する。設問に対して的確に答えることが求められる。「自らの考え」を述べるにあたり、「作文」「感想文」との違いに注意。
- 2) 小論文の課題の種類  
①短文型  
「〇〇についてあなたの考えを述べなさい」など比較的短い語句や文でテーマを示し、それについて答えさせるもの。

- ②課題文読解型  
一定の分量の文章を読ませ、その内容や文章の一部について考えを答えさせるもの。「小論文」の中では代表的な出題形式。
  - ③資料読解型  
図やグラフを提示し、そこから読み取れる事柄について答えさせるもの。文章と違って図やグラフの読み取りを練習する必要がある。
  - 3) 小論文の基本ルール  
ポイントは次の5点。①原稿用紙の使い方 ②日本語の正しい使い方 ③文字の読みやすさ ④各課題における条件を満たすこと ⑤意味段落、形式段落を設けること。
  - 4) 表現上のルール  
①書き出し、段落の初めは1マス空ける。  
②「**「**」、「**『**」、「**”**」を正しく使う。  
③数字、英語、略語、カタカナを正しく書く。  
④話し言葉、流行語、略語を使わない。  
⑤漢字、熟語を正しく書く。  
⑥常体、敬体をどちらかに統一する。  
⑦体言止め・比喩など表現技法の使用に注意する。  
⑧段落を設定する。  
⑨主語と述語、修飾語と被修飾語を対応させる。  
⑩「～て、～に、～を、～は」等の助詞を正しく使う。  
⑪読点(、)を使いすぎない。  
⑫接続語、指示語を適切に使う。  
⑬身近な具体例をできるだけ使う。  
⑭感情的な表現を避ける。
- 【小論文の対策を練ろう！】
- ①志望に合わせた知識を吸収しよう。  
課題に使われている語句を手がかりに図書館などで関係のある本をピックアップし、読めるところから読んでみる。新聞やニュースでもよい。本は全部読まなくてもよいので、気になるところ、理解できそうなところ、興味をもてそうなところを読み、ノートなどにメモをとる。
  - ②新聞の投書欄、小論文の解答例などを書き写す。  
その際、声に出して表現や考え方、話の進め方を意識して書き写す。その後、自分なりに思い出しながら書く。初めは例を見ては書くことを繰り返すのもよい。繰り返すうちに一字一句をそっくりそのまま書くことは面倒になって来るはずだ。そこで、自分なりに書いてみる。大体の話、内容、進め方がわかってきたら、何も見ないで思い出しながら自分なりに書く。
  - ③ある程度自信がついてきたら、志望学部学科に即した形式、テーマの問題をやってみよう。  
時間は制限せず、とにかく書いてみる。それを先生や他の人に添削してもらおう。添削された事柄を意識してもう一度書いてみる。これらを繰り返し、ある程度、添削されなくなったら、次の課題に進む。無駄な努力はないのだから、できるだけ多くの知識、見方、考え方を吸収し、それらを引き出せるようにしておくこと。必ず実力は身につくし発揮できるようになるので、頑張ってください。